

筑波大学2学エリア付近におけるタバコのポイ捨ての分布と特性

浅見岳志 (博士前期課程地球科学専攻)

1. 目的: 受動喫煙対策を強化する改正健康増進法が2019年7月に施行されたことにより、筑波大学では構内における喫煙が禁止されることとなった。一方で、タバコのポイ捨て問題などが顕在化しており、学内の各所にタバコの吸い殻が散乱しているとの記述も見られる。そこで本研究では、筑波大学第2エリア周辺におけるタバコのポイ捨ての分布と特性を明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象地域: かつて喫煙所が複数箇所設置されていたこと、バス停留所や大学の中心部である本部棟、学生が多いエリアなど様々な特徴を持つ施設が存在するなどの理由から、本研究では筑波大学第2エリア周辺を対象とした。

3. 研究手法: Survey123を用い、研究対象地域内におけるポイ捨てされたタバコの吸い殻の位置情報を取得した。同時に、位置情報を取得した際の周囲の人通りを目測で計測し、タバコの吸い殻がポイ捨てされている場所の環境とともに属性データとして収録した。これらをSurvey123上でマッピングし、研究対象地域における分布図を作成した。次に、得られたデータをもとに、人目の付きにくさおよび周囲の環境がタバコのポイ捨てにどのように関与するかを考察した。

4. 結果・考察: 筑波大学第2エリア周辺では、第1図および第2図の4地点(A~D)にポイ捨てが集中していることが分かった。ポイ捨てが集中する場所は習慣的な喫煙者にとっての喫煙場所として利用されている。図1、図2より、これらの場所は人通りの多い歩道を避けるように存在することがわかる。このことから、研究対象地域におけるタバコのポイ捨てが集中する場所は、習慣的に同じ場所で喫煙を行おうとするためにより人に見つかりにくいところを見つけようとする心理が働いた結果生まれるものであると推測できる。同様に図1、図2より、ポイ捨てが散在する場所では、人目の付きやすさに関係なく、歩道上に分布していること

がわかる。建物から建物、あるいは建物と駐車場などへと移動する際に喫煙を行っているため、タバコのポイ捨てが密集する場所で見られたような「人目を気にして落ち着いて喫煙できる場所」という特徴よりも「建物あるいは駐車場などのアクセスが良い場所」という特徴が表れるのだと推測できる。駐車場は異なる特徴を持ち、ポイ捨てが駐車場南側に偏在している。その中でも駐車場南西部(地点D)へのポイ捨ての集中は顕著であることがわかる。駐車場の南側は本部棟につながっており、駐車場南西部はループ道路にもつながっていることから日常的に利用者が多い場所である。その結果、タバコのポイ捨ても増加する傾向にあるのだと推測できる。

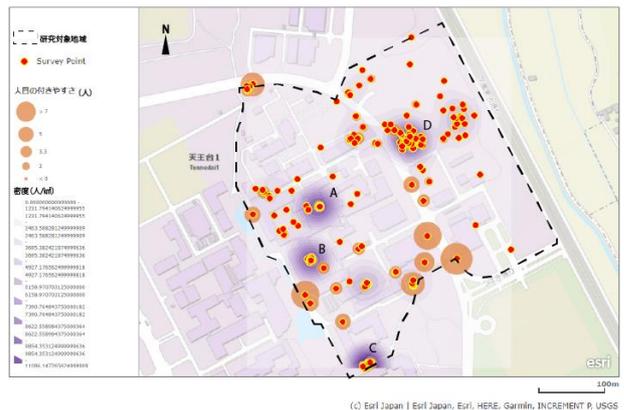


図1 人目の付きやすさとタバコのポイ捨ての分布 (調査より作成)



図2 周囲環境とタバコのポイ捨ての分布 (調査より作成)